

～タイムスリップ～
城下町萩のひみつ

展示資料目録

会期：平成21年11月28日～平成22年1月28日

城下町萩では、江戸時代の城下町絵図を、現在も地図として用いることができます。そのことは、江戸時代に形作られた「まち」が、壊されることなく継承されていることを意味します。

〈城下町の発達〉

～ 萩には、色々な年代の城下町絵図が伝えられています。時代を追って絵図を見ていくと、三角州の微妙な地形を活かし、治水・排水に苦勞しながら三角州を開発し、城下町を発展させてきたことがわかります。

資料名	年代
草創期の萩城下町	不明（慶長・元和）
慶安5年（1652）の萩居城絵図	慶安5年（1652）
寛文10年（1670）前後の城下町絵図	寛文10年（1670）頃
宝永6年（1709）頃の城下町絵図	宝永6年（1709）頃
寛保2年から延享4年ころの城下町絵図	寛保2年（1742）～延享4年（1747）
文化・文政期の城下町絵図	文化3年（1806）～文政9年（1826）
嘉永5年（1852）頃の城下町絵図	嘉永5年（1852）頃
明治2年（1869）の城下町絵図	明治2年（1869）



嘉永5年（1852）頃の城下町絵図

〈明治以降、萩三角州低湿地を開発したことにより守られた城下町〉

～ 明治時代以降、萩の「まち」でも、他の都市と同じように様々な近代化が図られました。学校・役場や公的な機関、道路などは、三角州中央の低湿な一帯を利用して築かれたことから、元からあった「まち」が大きく壊されませんでした。

資料名
三角州低湿地の開発
三角州低湿地に建設された公共・公益施設（鳥瞰、等高線図）
萩三角州南方上空からの鳥瞰図
萩三角州微地形模型
明倫館敷地出土シダ
出土状況写真
萩の空から ～ 萩三角州航空写真 ～



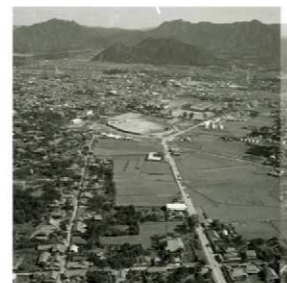
旧萩市役所



明倫小学校前



旧市役所消防署江向方面



平安古上空から
市民球場・三角州中央方面

〈夏みかん栽培により守られた城下町〉

～ 明治維新の後、禄を失った武士の救済のために、夏みかんの経済栽培が、広い武家屋敷地を畑にして始められました。萩町の年間予算の8倍を超える生産量があるなど、夏みかんは永く萩の経済を支え、その結果、武家屋敷地が維持されることになりました。

資料名
城下町絵図（NPO・博物館編）
昭和22、23年撮影、萩三角州航空写真
土堀・石積み堀・生垣分布図
1952年 夏みかん畑の分布図
夏みかん栽培・出荷写真（写真GP）
地図を重ねて再発見（萩学なんでもBOX）



土堀と夏みかん



夏みかん選果

〈鉄道が萩三角州を迂回敷設されたことにより守られた城下町〉

～ 近代化の象徴といえる鉄道は、大正14年（1925）に、ようやく萩まで開通しました。その際に、鉄路は萩三角州の外を巡る形で敷設されました。仮に、三角州内に駅や鉄道が設けられた時には、「まち」の様相を大きく変える大規模開発が行われたと考えられます。

資料名
鉄道の三角州迂回敷設
萩を中心とする付近各所図画パネル
鉄道が開通した際に発行されたパンフレット （「萩を中心とする付近各所図画」）
『雷鳴』
鉄道が開通する以前の萩町地図（「山口県萩町新地図」）
鉄道が開通した年に発行された萩町新地図（「萩新地図」）



鉄道が開通した際に発行されたパンフレット
「萩を中心とする付近各所図画」

〈戦災をまぬかれた城下町〉

～ 萩の「まち」は、幸いなことに戦災や震災、甚大な天災や「まち」を焼き尽くすような火災に遭っていません。それは、江戸時代の城下町を起源とする「まち」の、様々な要素を今に伝えることに大きく作用しています。

資料名
爆撃目標とされた都市の一覧
戦時中に米軍が撮影した萩三角州航空写真
爆撃指令書

〈今に息づく城下町〉

～ 1970年代撮影の萩の町並み写真群では、そこかしこに、江戸時代の城下町のたたずまいを認めることができます。これらの写真と、現在の萩の「まち」とを比べると、「変わったもの」、「変わらないもの」、そして「変わって欲しくないもの」が見えてきます。



爆撃目標とされた都市の一覧